

組織目標評価報告書（平成24年度）

部局名：工学部

目 標	目標の達成状況(成果)及び新たに生じた課題への取組 (部局での検証とそれに対する取組)
<p>①教育領域</p>	
<p>①-1 目標</p>	
<p>「教育研究組織改革の検証と更なる検討」として、以下を実施する。</p> <p>(1)平成23年度に実施した改組(学科の再編や共通コア科目の実施など)の実施内容を点検し、改善を検討する。</p> <p>(2)関連する3学部長と2研究科長に協力し、教育研究の運営管理方法の改善を検討する。</p> <p>「学士教育の改革」として、以下を実施する。</p> <p>(3)Q-cumシステムの利用を積極的に進める。</p> <p>(4)工学教育評価外部委員会の継続開催と指摘事項の改善検討を行う。</p> <p>(5)工学部共通コア科目の教育環境(工学実習室、実習機材、教員、教務システム)を整備する。</p> <p>「グローバル人材育成の推進」として、以下を実施する。</p> <p>(6)韓国やマレーシアなどの学生に加え、新たにサウジアラビアの学生も含めた留学生の教育充実を図る。</p> <p>(7)経済学部との協力による科目(例えば、生産管理論(仮名))の実現に向けた検討や事前イベントを実施する。</p> <p>「広報活動の推進」を中心として、以下を継続実施する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・岡山県内高等学校理数科系教員との懇談会 ・高等学校進路指導担当教諭との懇談会 ・岡山県内工業高校校長との懇談会 ・中国四国地区国立大学工学系学部合同説明会 ・女の子のための理工系進学情報誌「Happy Technology」への参画 ・オープンキャンパスで、女子生徒を対象としたプログラムを実施 ・夢ナビプログラムへの参画 ・工学部案内DVD作成(平成23年度に検討着手) ・日経ユニバーシティ・コンソーシアムへの参加 ・工学フォーラム2012への参加 <p>また、表彰(教育貢献賞とベストティーチャー賞)は、継続実施する。</p> <p>なお、工学部独自の出前説明会は、高大連携事業の改善に伴い収束させたが、学生の派遣は継続して行う。</p>	<p>自己評価</p> <p>下記に記載するように、目標で掲げた内容をすべて実施した。</p> <p>まず、左記の項番に従って記述する。</p> <p>(1)クラス分け等を改善した。</p> <p>(2)「学部大学院融合会議」の新設を提案し、来年度から実施することにした。</p> <p>(3)システム利用に向けてシラバス改修などを行った。</p> <p>(4)委員会のメンバを増加させ、強化した。</p> <p>(5)来年度の工学部5号館改修の際、講義室の収容人数を増加させることとした。</p> <p>(6)サウジアラビア学生の内1名に対し、特別なカリキュラムを用意して教育した。</p> <p>(7)経済学部と協力して、科目「実践コミュニケーション論」を実施した。</p> <p>また、「広報活動の推進」は、左記のすべてを実施した。</p> <p>さらに、表彰(教育貢献賞とベストティーチャー賞)を実施した。</p> <p>なお、工学部独自の出前説明会は、高大連携事業の改善に伴い収束させたが、学生の派遣は行った。</p> <p>さらに、目標として記載した項目以外に新たに以下を行った。</p> <p>(A)ミャンマーとの連携について、関連大学とともに検討した。</p> <p>(B)岡山県工学教育協議会を本学部で主催した。</p> <p>(C)読売新聞と朝日新聞に本学部の特徴を広告した。</p>
<p>①-2 目標とする(重要視する)客観的指標</p> <p>(1)志願倍率(学部入試倍率:前期日程)の目標を2.2倍とする。 (平成24年度は2.6倍に急上昇(平成23年度は1.9倍)したため、反動による低下を15%減程度に抑えたい)</p>	<p>目標とする客観的指標については、志願倍率(学部入試倍率:前期日程)の目標2.2倍を達成した。なお、後期日程については、昨年度(5.0倍)を上回る6.5倍にできた。</p>
<p>②研究領域</p>	
<p>②-1 目標</p>	
<p>「外部研究資金等の獲得の推進」として、以下を継続実施する。</p> <p>(1)産学連携推進委員会の開催</p> <p>(2)研究成果(論文など)の公表(工学部研究年報)</p> <p>(3)教授会での外部資金獲得状況の報告(毎月)</p> <p>(4)科研申請状況の把握と申請の依頼</p> <p>「全学的プロジェクト研究等の推進」に向けた試みとして、平成22年度から行っている「学科の枠を超えた共同研究」を継続して実施する。</p> <p>なお、表彰(研究功績賞)は、継続実施する。</p>	<p>自己評価</p> <p>「外部研究資金等の獲得の推進」を左記のとおり実施した。</p> <p>「全学的プロジェクト研究等の推進」を左記の通り実施した。</p> <p>なお、表彰も実施した。</p> <p>目標とする客観的指標については、以下の状況であった。</p> <p>(1)科研申請率は99%であった。これは、未申請理由を把握できなかった教員がいるためである。</p> <p>(2)学部資金獲得は、昨年度に比べ、以下の状況である。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・共同研究(件数96%、金額91%) ・受託研究(件数102%、金額112%) ・奨学寄附金(件数103%、金額145%) <p>合計として、件数は100%と横ばいであるが、金額は110%であり、目標を達成できたと考える。</p>
<p>②-2 目標とする(重要視する)客観的指標</p> <p>(1)科研申請率100%(教員全員が新規申請と継続のいずれかに該当する。ただし、特別な理由がある教員を除く)を目指す。</p> <p>(2)外部資金獲得(共同研究、受託研究、奨学寄附金)の前年比5%増加を目指す。</p>	<p>目標とする客観的指標については、以下の状況であった。</p> <p>(1)科研申請率は99%であった。これは、未申請理由を把握できなかった教員がいるためである。</p> <p>(2)学部資金獲得は、昨年度に比べ、以下の状況である。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・共同研究(件数96%、金額91%) ・受託研究(件数102%、金額112%) ・奨学寄附金(件数103%、金額145%) <p>合計として、件数は100%と横ばいであるが、金額は110%であり、目標を達成できたと考える。</p>
<p>③社会貢献(診療を含む)領域</p>	
<p>③-1 目標</p>	
<p>「戦略的社会貢献」として、以下を実施する。</p> <p>(1)サウジアラビアとの協力</p> <p>(2)震災復興・日本再生支援事業での鳥取大学との連携</p> <p>また、以下を継続実施する。</p> <p>(3)地域の小中学生向けの工学実験教室</p> <p>(4)産官学が連携した研究会の事業(OICTなど)</p> <p>(5)国立大学53工学系学部長会議下の大学連携推進委員会(副委員長として)に協力</p> <p>なお、表彰(社会貢献賞)は、継続実施する。</p>	<p>自己評価</p> <p>左記の項目をすべて実施した。</p>
<p>③-2 目標とする(重要視する)客観的指標</p> <p>特になし</p>	
<p>④管理運営領域</p>	
<p>④-1 目標</p>	
<p>「効果的な予算配分と経費削減」として、以下を継続実施する。</p> <p>(1)会議関連の効率化(資料のPDF化と事前配布、最長2時間、17時以降は原則禁止)</p> <p>(2)法令遵守の徹底(関連して、以下の研修会を継続実施する。)</p> <p>(3)コンプライアンス研修会、ハラスメント研修会、メンタルヘルス研修会</p> <p>また、教員間のコミュニケーション円滑化と情報共有化を図るため、以下を継続実施する。</p> <p>(4)教員会議(全教員対象、年4回)を実施する。</p> <p>(5)准教授会を開催し、今後の工学部について議論する。</p> <p>(6)「工学部長室だより」を電子メール配信(毎月)する。</p> <p>さらに、以下について検討する。</p> <p>(7)工学部は、教員一人当たりの入学定員数が岡山大学の理学系学部では最多であり、また神戸大学や広島大学の工学部に比べても多いため、教育の質の低下など多くの面でこの影響が懸念される。このため、対策を検討する。</p>	<p>自己評価</p> <p>左記の項目をすべて実施した。</p> <p>新たに、工学分野のミッションの明確化について、関連者の協力を得て、以下を行った。</p> <p>(A)説明資料を10月に文部科学省に提出した。</p> <p>(B)追加説明資料を作成し、文部科学省との意見交換会(2月5日)において、説明を行った。</p> <p>(C)意見交換会(2月5日)での課題について、資料を作成し、2月13日に提出した。</p> <p>さらに、国立大学53工学系学部長会議下の大学連携推進委員会の副委員長および委員長であることから、工学分野のミッションの定義について、文部科学省と意見を交換した。</p>
<p>④-2 目標とする(重要視する)客観的指標</p> <p>特になし</p>	
<p>【総括記述欄】</p>	
<p>各目標について、計画通り実施できた。特に、教育領域における客観的指標として、「志願倍率(学部入試倍率:前期日程)の目標を2.2倍とする」を掲げ、広報活動などを積極的に行い、目標を達成できた。さらに、後期日程についても昨年度(5.0倍)を上回る6.5倍にできた。来年度も各項目を継続実施する。</p> <p>目標として記載した項目以外に、ミャンマーとの連携、国立大学53工学系学部長会議関連、および工学分野のミッションの明確化などがある。</p> <p>(1)ミャンマーとの連携は、旧六大学工学部長会議が中心となり、来年度からの実施に向けて検討を進めた。来年度は、内容の具体化を図ってゆく。</p> <p>(2)国立大学53工学系学部長会議下の大学連携推進委員会の副委員長及び委員長として、工学フォーラム2012に参加協力し、日経新聞の特集記事にも協力した。また、「工学分野のミッションの定義」について、文部科学省と意見を交換した。来年度も、他大学と協力し、工学分野のアピールを積極的に行う。</p> <p>(3)工学分野のミッションの明確化について、本学に関する説明を文部科学省に行った。工学分野は、機械、電気、情報、化学といったように多岐に及んでおり、自然科学系の他分野の理学や農学と関係が深く、その境界は、離散的(デジタル)ではなく連続的(アナログ)であることを基調とし、岡山大学では各分野独自の教育研究だけではなく、異分野融合の教育と研究を重点化している旨を述べた。来年度は、この基調に基づき、その特徴を生かすための活動内容を検討する。</p>	